

事例番号840

| | | | |
|--------------|-----|------------|--|
| 発生場所 | トイレ | 精神・意識障害の有無 | リスク |
| 発生場所 (その他) - | | | |
| 関連したもの | ドア | 発生内容の分類 | |
| | | 閉じ込め | D. スタッフによる物の不適切な使用・利用・選択・設置・確認不足によるリスク |

発生内容

外来ブースでのトイレ内急変

概要

頭痛を主訴として外来受診を希望され、当院に独歩で来院。総合案内看護師と症状について話をしている際に、「気持ちが悪いためトイレに行きたい」と言われ、トイレに中座。5分ほど待っても帰って来られないため、トイレの様子を見に行くと返答なく、トイレ内に入ったままの様子。トイレのドアを開けようと思ったが、解錠するものが手元になく、たまたま通りかかった清掃員に声を掛け、解錠していただく。その際、患者はドアの前に倒れており、内開きのドアであったため、直ぐに患者を救出出来ず。数名のスタッフでバタバタしているうちにドアが外開きになり、患者を救出するスペースが確保出来た。患者はトイレ内でCPA状態で倒れており、速やかにCPRを開始した。この時、現場にいたスタッフは全員が「何故、急にドアが外開きが出来たのかわからないが、外開きになったことで患者を救出出来た」と回答した。

要因

当院は新築移転し1年が経過。3階までの外来棟スペースはトイレの施錠がスライドバー式のもので、ドアは内開き仕様になっていた。解錠方法はすぐにわかるが、解錠するものが身近になかった。また、患者の救出もしくは処置スペースを確保するための場所を作るために、ドアを外開き出来る手法を知らなかった。施設管理者からの伝達もなかった。

対策

ドアを速やかに解錠出来るよう、解錠用金具（十円玉サイズの丸ワッシャー）を購入し、外来ブースのトイレに設置。解錠方法及び外開き方法の手順書を作成し、それを配布しながらブース毎の責任者に手順を説明。スタッフの方にも数名ずつ集まって頂き、実際に体験していただいた。各ブースのスタッフには順次伝達し、体験していただく予定である。今後は医療安全だよりも掲載し、病院スタッフ全体に周知していく予定である。

参照



通常のドアの内部状態
外開きには出来ない仕組みになっている



丸ワッシャーをトイレ
内スロップシンク
(SK) 内に設置



開錠後ロックが外れ、スライドバーをさらに中側に押し込められるため、ドアが外開き出来る



外開き出来ることを確認するスタッフ